

大学病院の地域連携室の役割

地域連携室 鈴木健一

皆さま初めまして、医療福祉支援センター地域連携室の鈴木健一です。

今年2月から医療福祉支援センターの地域連携室へ配属となり半年以上が経過しました。着任当初から新型コロナウイルス感染症が広がりを見せており、今なお流行の状況は落ち着きそうにありません。当院ではこれまでも様々な感染症対策をしてきましたが、今後も継続的な対応が必要だと考えています。そのような状況下、私が今働いている大学病院の地域連携室の役割について少し述べたいと思います。

地域連携室の本来業務は、診療所や他の病院から当院にご紹介いただく患者さんの予約受付と、当院から他施設へ転院される患者さんの予約取りです。いわゆる病診・病病連携業務が当部署の役割となりますが、現在はどちらの予約対応も電話・FAXでのやり取りで行っています。実際、当院を受診される患者さんと当院から他施設にご紹介する患者さんのほとんどを地域連携室にて予約対応しています。なお、ご紹介いただいた患者さんやそのご家族の方々が少しでも安心して受診していただけるように、現在も病院正面玄関での体温測定と病院職員の体調管理を徹底しております。また、入院患者さんへの面会については、ホームページ等にも記載してあるように一定の制限を設けていますが、テレビ電話システム等を用いた対応なども行っています。これからも、当院をご利用いただいている患者さん・ご家族だけでなく、常日頃ご紹介いただいている先生方にも満足いただける対応に努めていきますのでよろしくお願い致します。

そのほか、地域連携室に期待される業務として、地域の医療関係者および地域住民の皆さまへの情報提供が重要だと考えています。これまでも「はんだ山の風」や「かけはし」などの広報誌を通じた情報提供や市民公開講座の開催などを行ってきましたが、昨今のコロナ禍の状況を考えると、オンラインシステムを用いたサービスや各種企画を進めていく必要性を感じています。正直、私自身も習うより慣れろで、この半年は世の中の流れに遅れまいとオンラインツールの習得に必死でした。幸いなことに、世の中のリモート・テレワークの普及等にともない、地域連携室においてもオンラインツールの使用機会が増えたことで利用自体への抵抗はなくなったように思います。現在、医療福祉支援センターでは、従来の集合型セミナーや対面式の医療相談対応からオンラインツールを活用した各種サービスの実施検討を行っています。それらの全てが実現するか否かは不明ですが、ウェブセミナーの実現に関してはかなり準備が進んでいます。皆さま方にもいずれご案内できるかと思っておりますので、その節にはご利用いただければ幸いです。

大学病院の地域連携室の業務は時代の流れにともない変化していくべきかと考えます。今後も地域の皆さまに安心と信頼を提供しつつ、必要な情報を共有しながら貢献していける身近な存在でありたいと考えていますのでよろしくお願い致します。

